

のみSDGsパートナー活動状況報告書

能美市長 宛て

所在地 能美市山口町ワ27番地

企業・団体・個人名 (株)日本海開発

1. 活動内容及び効果

※活動の様子が分かる写真があれば添付する。

(活動内容)

- ・当社が市内の給食残渣や剪定枝チップ等の再生資源を活用して作った有機肥料「ひかり太陽」を使用し、吉川農園（上開発町）の協力のもと、辰口中央小学校6年生を対象に大根づくり体験を行った。事前講習として、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷をできる限り低減する“循環型社会の形成”の取組を紹介した（2023.9.5）。授業後には、『環境食育絵日記』と題した「こうなったらいいな2030年の能美」を絵で表現してもらい絵日記展（2024.1.26～1.29）を実施した。



■ 大根づくり体験と環境食育絵日記展の様子 ■

- ・食育事業の一環として、収穫した大根を材料として活用するエコクッキングを実施した。（2023.11.17・11.24）事前に食育の普及啓発につながる動画も作成し活用した。有識者に、エコクッキングのレシピ考案を行ってもらい直接指導もしていただいた。あわせて、エコクッキングを体験した小学生とその家族を対象に食品ロスに関する意識調査を行った。自分たちで栽培した作物を食べるという体験を通じて、食の大切さを学習する機会ともなり、地産地消と食品ロス削減に対する意識を高めることができた。



■ エコクッキングの様子

- ・根上グリーンビーチの清掃「海ごみゼロウィーク」を前田製菓(株)と合同で実施した(2023.10.15)。当社18名、前田製菓16名の他、金城短期大学生3名、子ども達を含む19名の地域の方々の参加協力を得た。



■ 海岸清掃活動の様子 ■

- ・根上地区の小中学校と一緒に海岸清掃活動に取り組んでいるご縁から、金沢星稜大学岸本ゼミによる「地域住民と取り組む能美海岸の海岸保全プロジェクト」(2022年10月～2023年9月)に協力した。
- ・平成20年より続けているエコキャップ回収活動は、いただいた方々の写真を日々ホームページに掲載している。1000個集めると1人分のワクチン代金になり、世界中で病気に苦しむ子供たちの命を助けることができる。令和6年1月20日より、エコキャップの売却益を日本赤十字社「令和6年能登半島地震災害義援金」へも寄付ができるようにし、学校・団体などへ協力を呼び掛けている。  
また、金沢星稜大学、金城短期大学の学生にも協力してもらい「いしかわ環境フェア2023(2023.8.26～27開催)」に初出展し、楽しくリサイクルを学べる場として来場者にエコキャップアートを体験してもらった。同時に金城短期大学廣瀬ゼミの学生制作による海洋ごみを使ったキーホルダーやアクセサリーを販売した。  
2023年度(2024.3.21時点)は、持込量が14,154kgで223件の協力を得ることができた。



■ エコキャップ回収活動と「環境フェア 2023」の様子 ■

(効果)

- ・小学生が持続可能な社会について自分たちで考える機会を与えた。
- ・自分たちで栽培した作物を食べるという体験を通じて、食の大切さを学習する機会ともなり、地産地消と食品ロス削減に対する意識を高めることができた。
- ・エコキャップ回収や海岸清掃活動を通じて、県内外の企業、学校、各種団体、地域の方々とパートナーシップを組むことができた。

## 2. 今後の活動予定

- ・地域食文化の継承や普及啓発につながる動画を作成し活用する。
- ・農業体験を実施した小学生に有識者監修によるエコクッキングを体験させ、地域に適した食品ロス削減に向けた取組を模索する。
- ・小・中学校、高校、企業との海岸清掃活動を継続する。
- ・大学生に協力を呼びかけ「いしかわ環境フェア」に出展する。